

NPO法人 世界のこどもネット

カンボジア井戸建設視察報告

☆ ミニレター vol.1 ☆

2012年9月15日発行



2012年9月5日～9日、カンボジア井戸建設視察を実施致しました。井戸をご寄贈頂いた、明野宗弘様、中島研司様、高六太鼓の岡田様、坂本様、近藤様他関係各位のご参加のもと、建設井戸の視察、建設地域の村人達との交流、チャンボック小学校の子ども達との文化交流、プノンペン特別経済特区等社会経済視察、プノンペン/シェムリアップ観光等ハードな視察日程でした。参加者のお一人であり、世界のこどもネット会員の高六太鼓の岡田エツ子様から報告をいただきましたので、以下、ご紹介いたします。

9/5日～9日、NPO法人世界子どもネットのカンボジア井戸建設視察ツアーに参加させて頂きました。世界の子どもネットさんがカンボジアで井戸建設寄贈を行っていると聞いたのは、今年の春でした。私たち高六太鼓の指導をお願いしている吉村城太郎先生が自らも井戸寄贈者になり文化活動などをされている報告と訴えを聞きました。高六太鼓のメンバーは、私たちの太鼓演奏を聞いてくれる方々と共感し太鼓の演奏が生きる喜び・生きる力になる事を25年の歴史から感じてまいりました。だから、吉村先生の話に共感し、すぐに「高六太鼓」としてカンボジアに井戸建設を寄贈する事を決めました。世界の子どもネットさんの「日本・カンボジア文化芸術交流」の報告会にも会から5名のメンバーが参加しました。今回の視察を終えてあらためて平和である幸せをかみしめました。

カンボジアは歴史的にも植民地や占領地・内戦が続いた国ですよね。水道も電気も学校もない村はどんな生活をしているのだろうか？みなさんに会う前は、どうやって話かけたらいいのか不安もありました。高六太鼓の井戸はプノンペンから、マイクロバスで2時間位の田園地帯の村にありました。自然がいっぱいで、癒やされました。私たちが到着すると子どもたちを初め村人たちが待っていてくれました。50人は超えていました。

私たちのささやかな贈り物は、村人にとっては「命の水」なんです。日本語しか話せない私のつたない挨拶に大きな拍手を送ってくれました。「ありがとう村人のみなさん！」村人のなかに、自分の足の膝をみせてくれる女性がいました。「水くみで痛めたけどこれからは楽なるよ。」言葉は通じなくても体の表現で理解できました。井戸の完成は、村人たちの喜びがジンジン伝わってきて感動でした。太鼓仲間や友人たちにカンパとして頂いたタオルやうちわのプレゼントも大変喜ばれました。チャンボック村では子どもたちが、伝統的な踊りのアプサラダンスを披露してくれました。お礼(?)に、「炭坑節」で交流しました。=掘ってほっとまた掘って！= この踊りの紹介がうけにうけて、子どもたちの素晴らしい笑い声と歓声から、たくさんの元気を貰いました。村人たちのはちきれんばかりの笑顔は、一生忘れる事ができない出会いになりました。

ささやかなお世話が、大きな幸せを生み出す一歩であることも確信になりました。私も今回を機会に、子どもネットの会員になりました。ささやかな活動を身の丈で息長くみなさんと一緒おねがいします。そしてなによりも自分自身の幼少の頃の生活が重なりあい懐かしい気持ちになりました。一日も早くカンボジアのすべての子どもたちが教育を受けいれるようになると、もっと輝いた国づくりができる…、そんな事を考えさせられた旅でした。

